

## エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和 5 年度エゾシカ WG の開催概要

- ・ 第 1 回会議 令和 5 年 6 月 19 日（月）斜里町産業会館
- ・ 第 2 回会議 令和 5 年 11 月 27 日（月）札幌市北農健保会館
- ・ 追加会議 令和 6 年 2 月 5 日（月）オンライン方式

### 2. 主な議事内容

第 2 回会議では、2023（R5）シカ年度エゾシカ実行計画の実施状況が報告され、エゾシカ対策の実施状況及びモニタリング結果を踏まえた議論を行った。また、令和 6 年度に知床岬地区において通信環境整備に関する工事が実施されることを受けて、特に知床岬地区での今後のエゾシカ対策を集中的に議論するため、第 2 回会議に引き続き追加会議を開催した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■知床岬地区におけるエゾシカ対策について

- ・ 令和 6 年度は工事の実施や作業員の立入が予定されているため、グリーンシーズンの捕獲はとりやめ、エゾシカ対策の手法を再構築する機会とする。そのため、既往知見の整理や有識者ヒアリングのほか、主に次の事項について現地調査が必要である。

##### ◇エゾシカの動態把握

- ・ 自動撮影カメラによる調査（捕獲手法や密度推定等への活用）
- ・ 生体捕獲による GPS 首輪の装着、放獣（将来的に罔ジカとして活用を目指す）

##### ◇新たな上陸可能地点の把握（捕獲範囲の拡大）

- ・ 船主へのヒアリング調査

##### ◇捕獲効率の引き上げ

- ・ シカ笛を用いた捕獲可能性調査

#### ■植生モニタリング結果について

- ・ 知床岬は、特に草原部において開花株が増えていることもあり、回復傾向が維持されていると読み取って差し支えない。一方で森林に関しては、閉鎖林冠下で光資源が足りないことが主因となって急速に回復するのは難しいことから、現状で回復傾向を読み取ることは難しい。
- ・ 高山帯については、エゾシカの食害は散見される程度であり、植生に影響を及ぼすほど強い採食圧には至っていない。エゾシカの影響よりは、気候変動に対する低木の応答（低木の生長、生育範囲の拡大）の方が顕著に現れていると考えられる。

#### ■知床世界自然遺産地域管理計画の見直し検討について

第 2 回 WG では「植物群落の保全」に係る記述等に対して以下の意見あり。（本日の参考資料 2：p13～15）

- ・ 植物群落の一部において利用者や特定の生物の過剰な増加による影響が顕在化していることを明示すること。
- ・ 温暖化影響のモニタリングが重要なことを記載した方が良い。
- ・ 「しれとこ 100 平方メートル運動地」による森林生態系の復元事業は地元実施主体が推進しており、それに対して関係機関が協力支援することを誤解のないように記載すること。
- ・ 以上のほか、「知床が有するその他の価値」や「長期モニタリング計画に基づく総合評価の結果」の文章を精査（参考資料 2：p5）

## ■第2期長期モニタリング計画に基づく総合評価手法について

- ・総合評価手法の案について、特段の意見なし。
- ・評価の枠組みに関し、評価の対象「環境圧力/観光圧力」は、気候変動を対象とした環境圧力と人為的な影響である観光圧力は区別した方が良いとの意見が出され、その対処については当該枠組みを検討した適正利用・エコツーリズムWGの議論に委ねられた。

### 3. 令和6年度エゾシカWGに関する今後の予定

令和6年度は2回程度の開催を予定。

- ・第1回WG：令和6年6月頃 斜里町（知床岬地区の現地視察を予定）
- ・第2回WG：令和6年11～12月頃

以上